

研究課題	ともに学び、豊かなくらしをつくる子供の育成
副題	～子供たちをハッピーに 探究的な学習を通して～
キーワード	探究的な学習の可能性
学校/団体名	公立伊佐市立南永小学校
所在地	〒895-2813 鹿児島県伊佐市菱刈南浦 1002 番地 5
ホームページ	https://nanei-es.synapse.kagoshima.jp

1. 研究の背景

研究テーマ「ともに学び、豊かなくらしをつくる子供の育成 ～子供たちをハッピーに～」

- (1) 本校の児童は、おとなしく、自信なさげな言動が多い、そこで総合的学習の時間・探究的な学習を核にして、すべての教育活動を年齢や発達・教科・異なる多様な他者を越えて協働的な活動にすることで、子供たちが前向きになることを期待する。

年齢や発達を越えて、子供は協働的に学んでいる。
教科等を越えて、子供は協働的に学んでいる。
異なる多様な他者と協働して、主体的に課題を解決することで、探究的な学習の質を高め、実際の社会で活用できる資質・能力を育成していく。
 学校を中核として、子供の学びは時間と空間を越えて広がり、個の学びと集団の学びは往還しながら、一人一人の子供にとって最適な学びが実現される。



ヤギの出産の様子



田植えの様子

- (2) 小規模特認校である本校の様子を発信することで、校区・地域を元気にして、しいては市内全域からの児童増につながることを期待する。



校区のお祭りの様子



ヤギの入学式の様子

2. 研究の目的

研究テーマ「ともに学び、豊かなくらしをつくる子供の育成 ～子供たちをハッピーに～」

探究的な学習をとおして、自分を見つめる、振り返る、自分のよさを実感する活動。なりたい自分に気付いたり、なりたい自分を見付けたりするような体験。なりたい自分に向け努力する過程。なりたい自分に近づいている様子を実感し、発信する活動をすることで将来に

向けて豊かなくらしを手に入れことができると考える。

探究的な学習とは、“児童の主体的な学び”を導き出すために調べ学習を発展させた学習法であり、両者には明確な違いがあります。	
課題・テーマの設定者の違い	
先生から課題を与えられるのは	「調べ学習」
自分で問いを立てるのは	「探究学習」
学習の目的の違い	
課題の答えを調べて情報をまとめるのが	「調べ学習」
課題の設定・調査・まとめと繰り返して主体的・対話的に学び、自分の答えを出すのが	「探究学習」
協働的な学びがあるかの違い	
与えられた課題やテーマを調べて回答するのが	「調べ学習」
対話的な学びや他者との協働が積極的に取り入れられているのが	「探究学習」

3. 研究の経過

小さな学校・小さな地域を魅力ある学校に。

本校は児童数が、小規模特認校の児童が5人、教職員の子供が3人の計8人である

(1年生が2人、3年が3人、4年生が1人、5年生が2人)。つまり地元の子供がいない。

しかも地域には住宅もなく、公共交通機関もなく小規模特認校の児童も年々減少している。校区内の世帯数は44世帯、住民が87人、ほぼ高齢者である。このままでは確実に学校がなくなる。なくなるにしてもこの今いる子供が卒業するまでは存続させたい。

探究的な学習を学校の魅力を発信して、地域も少しでも元気になってほしい。

4. 代表的な実践

研究テーマ「ともに学び、豊かなくらしをつくる子供の育成 ～子供たちをハッピーに～」

これらの活動から、子供が強い興味を持ち、「問い」を探して深く没頭できる課題を選んで探究的な学習をする。そのほかの活動は、中心的な活動に補完する形や付随する形、また、新たなアイデアを考えていく。

ヤギの飼育開始 米作り ぼたる観測会 さなぼり・棒おどり(田植えのお祭り) 川遊び
収穫祭 秘密基地作り 映画制作

(例) さなぼり・棒おどり(田植えのお祭り)

「お祭りをしたい。」なら田植えをしなければならない。じゃ苗作りも草取りも水の管理も稲刈りもしなければならない。祭りの準備もしめ縄作りや衣装の準備もしなければならない。そもその「さなぼり」って何だっけ。やるなら、たくさんの人に見てもらいたい。何をしたらいいんだろ。という流れで、PDCAサイクルで学習を展開したい。そして、最後には、地域への広報活動(公民館へのデジタル掲示板を設置)をして、地域を元気にした。

目的に対する具体的な取り組み内容・方法
 (評価と公開のための活動等も含めて記載、図貼り付け可)

4月 ヤギの飼育開始 名前付け お世話の係 小屋作り

※ 「自分で問いを立てる」子供たちは、1年間の行事計画と学びの計画を立てる。



計画の作成



看板作り



小屋の完成

《評価》 対話的な学びや他者との協働が積極的に取り入れられたか



完成したことで、子供なりにかなり自信になったと思う。

[地域への広報活動をする]

公民館へのデジタル掲示板を設置する。リアルタイムやブログ、ユーチューブ等で学校の様子を見てもらう。地域の人に学校に興味を持ってもらう。

5月 米作りの準備 苗床作り 田んぼの準備



しめ縄作りの練習



代かきの様子

※ 「課題の設定・調査・まとめと繰り返して主体的・対話的に学び、自分なりの答えを出す」子供たちは、計画の妥当性を検証し、修正を行う。

《評価》 十分楽しめる活動になっているか



地域のお年寄りとふれあったり、どろんこ遊びに夢中になったり十分楽しんでました。

6月 田植えの準備

[地域の反応]

反応を確認する。

7月 さなぼり・棒おどり (田植えのお祭り)

交流活動の研究授業



地域の行事を放送で知らせる



棒踊りの様子



さなぼり（地域のお祭り）の様子

川遊び

※ 「課題の設定・調査・まとめと繰り返して主体的・対話的に学び、自分なりの答えを出す」中間まとめをする。

《評価》 なりたい自分に気付いたり，なりたい自分を見付けたりするような体験になっていたか



これらの活動を通して年齢や発達を超えて、教科等を超えて協働的に学んでいた。異なる多様な他者と協働して、主体的に課題を解決できた。そのことで自信が芽生えてきた。また自己肯定感も高まってきた。

10月 稲刈り



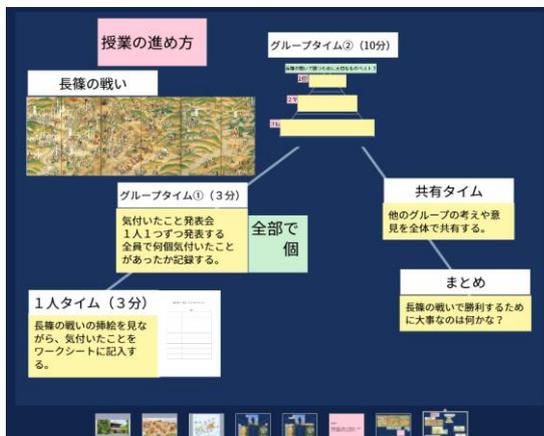
稲刈りの様子



姉妹校盟約で相手校に訪問

交流活動の研究授業

他校とのオンラインで交流



ロイロノートと紙媒体の指導案

第6学年 社会科学学習指導案

【本時の見どころ】

オンラインでつながる学び合いを通して、児童が社会的事象から問いをもち、解決の見通しを立て、資料などを活用して調べ、みんなで話し合ったり、考えたりしてまとめる学習過程になっているかを検証する。

1 単元名 戦国の世から天下統一へ

2 本時の目標

- (1) 織田信長や豊臣秀吉によって、新しい武器や戦術を使って天下統一を目指したことを理解させる。
(知識及び技能)
- (2) 戦国時代の様子や登場する人物に着目して、長篠の戦いの事象を捉え、戦いの途中や戦いの後は、どんな様子だったのか考えさせる。
(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 時代背景や挿絵から、自分の考えたことを相手に伝えたり、他者の考えを聞いたり、自身の考えを深める。
(学びに向かう力、人間性等)

3 実際 (1/6)

過程	主な学習活動 ● 予想される子供の反応等	時間 (分)	教師の具体的な働きかけ ○ 主な働きかけ ◇ 評価 ・ICT活用
つかむ・見通す	<p>1 室町文化を振り返り、長篠の戦いに関わる武将の写真を提示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「足利義満が金閣を建てた。」 ● 「Bの武将が強そう。鉄砲を持っている。」 <p>2 本時の学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 長篠の戦いが起きた時代は、どのような様子だったのだろうか。 </div> <p>3 解決の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ロイロノート全体を共有する。 ● 「人数が関係していそうだな。」 	5分 2分	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童が学習課題を捉えやすくするために、室町文化の様子を振り返る。 ○ 戦国時代に登場する人物を理解させ、児童の関心を引きつけさせるために、3つの挿絵を出し、全員に比較させ、思考させる。【ICT活用】 ○ 「長篠の戦い」というキーワードから、この時代がどのような様子だったのか発問することで、学習課題を児童とともに設定する。 ○ 長篠の戦いの図から、どのような様子だったのか、児童が見通しをもてるように、ロイロノートの共有ノートに画像を配信する。【ICT活用】
調べる・深める	<p>4 長篠の戦いの図を見て、気付いたことを共有する。(ワークシートの活用)</p> <p>〈1人タイム〉自分の考えをしっかりとつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「柵がある。」「山から攻めている。」「城がある。」「鉄砲を使っている。」 <p>〈グループタイム〉共有化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「人数差に違いがあるね。」 ● 「左側は柵や鉄砲もあって強そう。」 <p>〈全体タイム〉全体で共有化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 気付いた意見をランキングにする。 ● 「1位は鉄砲。片方は鉄砲を使っているけど、もう片方はやりや刀だけだから」「1位は、お城。日本各地にお城があれば、いつでも守ってもらえるから。」 <p>5 資料や本文をもとに、この時代の様子について考えを深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「室町幕府がおとろえた。」 ● 「戦国大名が現れ、戦国時代が100年ほど続いた。」 	3分 7分 10分 5分	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童に自分の考えをもたせるために、長篠の戦いの挿絵を提示して、どちらが戦いで勝つのか発問する。 ○ 全員が同じ課題に向き合うことができるように、長篠の戦いの挿絵と絵を見る4つの視点を提示する。 ○ 対話的な学びができるように、グループで考えたことを共有する。【ICT活用】 ○ 全体で考えを深めさせるために、出た意見をもとに、長篠の戦いで大切だと思う順番に並び変えさせる。 ○ 児童が新しい気付きや学びができるようにするために、他のグループの考えを聞く機会を設定する。【ICT活用】 ○ 鉄砲が伝わった場所や伝えた人物等を説明したり、挿絵や動画を使うなど、視覚的に理解を深め、戦国時代の様子に気付かせるようにする。【ICT活用】
まとめる・振り返る	<p>6 本時のまとめをする(協働してまとめる)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 室町幕府がおとろえ、戦国大名が全国各地で戦いをしていた。織田信長や豊臣秀吉らが長篠の戦いで、鉄砲などを使って勝利し、力を発揮するようになった。 </div> <p>7 本時を振り返る</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「織田信長の新しい戦術や鉄砲を使うことに驚いた。」 	5分 5分	<ul style="list-style-type: none"> ○ 長篠の戦いや資料から、児童とキーワードをもとに、まとめを考えさせる。 ◇ 織田信長が新しい武器である鉄砲を使い、長篠の戦いに勝利したことを理解している。 ○ ロイロノートに本時に学んだことを書かせることで、本時の振り返りができるようにする。【ICT活用】 ○ 次時の学習は、織田信長や豊臣秀吉の業績等について、詳しく学習することを伝える。

子供の学びは時間と空間を超えて広がり、個の学びと集団の学びは往還しながら、一人一人の子供にとって最適な学びが実現される。

〔地域の評価〕

地域の反応とその波及効果を確認する。

11月 収穫祭



脱穀の様子



お米の販売の様子

12月 秘密基地作り
1月 映画制作



学級発表会で映画作り

※ 「課題の設定・調査・まとめと繰り返して主体的・対話的に学び、自分なりの答えを出す」
《評価》 になりたい自分に向けて努力する過程。になりたい自分に近づいている様子を実感できたか



いろいろな活動を自分たちで企画・実践していく中で、自分には何でもできる可能性があるという実感をできた。そして、自信なさげな言動が消えていった。このことは、指導者や保護者、地域の方々にも感じていただいた。

5. 研究の成果

児童： 鹿児島県教育委員会作成に「楽しいーと」（自己肯定感等に関するアンケート）
12/14ポイント以上 校内の児童アンケート → 12/14 達成
全項目平均 3.5/4ポイント以上 → 3.4/4 未達成



ソーシャルスキルトレーニングの様子



構成的グループエンカウンターの様子

学校楽しいーと 自己肯定感の月別の推移



自己肯定感の推移

地域： 学校行事の参加率 70%以上 → 75% 達成
第三者評価 全項目平均 3.5/4以上 → 3.6/4 達成



多くの方が参加してくださいました

学校： 特認校児童の新規獲得 2人以上 → 3人 達成
交流学習・研究授業 年3回 → 3回 達成



ヤギの入学式の様子



他県とのオンラインで交流



他校とのオンラインで交流

6. 今後の課題・展望

今後は、この研究を継続しながら、他校とのICTによる交流・授業に力を注ぎたい。その際、VRやメタバースを活用し、子供たちがより生き生きする交流・授業をつくりたい。また、研究の途中で特認校児童の新規獲得につながった要因は、不登校の子供が「ヤギに会いたい」「一緒にヤギと遊びたい」というヤギによるいやしの効果が大いに関係している。「動物介在教育」

働き方改革のためだけのCBTではなく、CBTによる予習→授業→テスト→復習→学習の定着のサイクルをつくりたい。

7. おわりに

パナソニック財団には、このような機会を与えてくださりまして、誠にありがとうございます。研究・実践を通して、まだまだ不十分な研究・実践ではありますが、これからも学び続けたいと思います。

8. 参考文献

・なし